

## 平成29年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第3年次）（概要）

<b>1 研究開発課題</b>	Think Glocally, Act Glocally. ～世界ハ我市場ナリ～ 職業バカロレアとアクティブ・ラーニングによる 世界を視野に地域で貢献し、ビジネスを創造・構築できる人材の育成		
<b>2 研究の概要</b>	<p>世界を視野に、地域で貢献し、ビジネスを創造・構築できる人材を育成するため、以下の研究を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 フランスの職業バカロレアの出題形式を取り入れた学習指導の研究・実践を通して、専門性を定着させ、分析力・思考力・判断力・表現力を育成する。</li> <li>2 専門性を活かしたアクティブ・ラーニングの視点に立って授業を改善することにより、応用力・活用力を養うとともに、他専門領域にも関心をもち、生涯にわたって学び続けるプロフェッショナルな人材を育成する。</li> <li>3 企業等での長期間にわたる勤労実習（ジョブチャレンジ）により、確かな勤労観・職業観と専門性を活かした職業に対する意欲を持ち、実践力のある人材を育成する。</li> <li>4 商品の輸出入、外国での販売実習・インターンシップ、外国人向けの観光に関する実践活動等により、異文化を理解し、日本や名古屋の文化・伝統を理解するグローバルなビジネスを積極的に取り組む姿勢を持つ人材を育成する。</li> <li>5 地域の資源・伝統産業をベースにした商品開発、イベントの企画・運営等の学習により、地域の活性化を図るビジネスを創造し、地域に貢献できる人材を育成する。</li> </ol>		
<b>3 平成29年度実施規模</b>	1年全学級，2年全学科，3年全学科を対象として実施した。		
<b>4 研究内容</b>	<p>○研究計画（指定期間満了まで。5年指定校は5年次まで記載。）</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="159 1164 303 2060" style="vertical-align: middle;">第1年次</td> <td data-bbox="303 1164 1436 2060"> <p><b>【職業バカロレアの試験・評価法を活用した学習指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年「簿記」，2年「財務会計Ⅰ」における職業バカロレアの試験手法を用いた学習指導の予備的な研究</li> <li>・2年「プログラミング」における職業バカロレアの試験手法を用いた学習指導と評価法・評価規準の研究</li> </ul> <p><b>【商品開発に関するアクティブ・ラーニングの学習指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業との連携による和菓子・紙布の商品開発の学習内容，指導法及び外部機関との連携の在り方の研究</li> </ul> <p><b>【地域への貢献に関するアクティブ・ラーニングの学習指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活性化のためのイベントの企画・運営の学習内容，指導法，外部機関との連携の在り方の研究</li> </ul> <p><b>【国際交流に関するアクティブ・ラーニングの学習指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「国際テレビ会議システムを活用した交流授業」，「英語によるプレゼンテーション大会参加」及び「外国人留学生との交流」の学習内容・指導法の研究</li> </ul> <p><b>【グローバルビジネスに関するアクティブ・ラーニングの学習指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・台湾でのビジネス実習に必要な最低限の中国語会話の学習に関する学習内容，教材，指導法の研究</li> <li>・グローバルビジネスで必要とされる英会話，貿易取引に関する実務や外国でのビジネスマナーに関する学習内容，教材，指導法及び外部機関との連携の在り方の研究</li> <li>・東南アジアの経済事情に関する学習用の教材及び外部機関との連携の在り方に関する研究</li> </ul> <p><b>【ケースメソッドを取り入れた学習指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業財務分析をテーマとしたケースメソッドの学習内容及び指導法の研究</li> <li>・国際会計をテーマとしたケースメソッドの教材及び指導法に関する予備的な研究</li> </ul> <p><b>【ジョブチャレンジ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期の勤労実習の第2年次での試行実施に向けた予備的な研究</li> </ul> </td> </tr> </table>	第1年次	<p><b>【職業バカロレアの試験・評価法を活用した学習指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年「簿記」，2年「財務会計Ⅰ」における職業バカロレアの試験手法を用いた学習指導の予備的な研究</li> <li>・2年「プログラミング」における職業バカロレアの試験手法を用いた学習指導と評価法・評価規準の研究</li> </ul> <p><b>【商品開発に関するアクティブ・ラーニングの学習指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業との連携による和菓子・紙布の商品開発の学習内容，指導法及び外部機関との連携の在り方の研究</li> </ul> <p><b>【地域への貢献に関するアクティブ・ラーニングの学習指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活性化のためのイベントの企画・運営の学習内容，指導法，外部機関との連携の在り方の研究</li> </ul> <p><b>【国際交流に関するアクティブ・ラーニングの学習指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「国際テレビ会議システムを活用した交流授業」，「英語によるプレゼンテーション大会参加」及び「外国人留学生との交流」の学習内容・指導法の研究</li> </ul> <p><b>【グローバルビジネスに関するアクティブ・ラーニングの学習指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・台湾でのビジネス実習に必要な最低限の中国語会話の学習に関する学習内容，教材，指導法の研究</li> <li>・グローバルビジネスで必要とされる英会話，貿易取引に関する実務や外国でのビジネスマナーに関する学習内容，教材，指導法及び外部機関との連携の在り方の研究</li> <li>・東南アジアの経済事情に関する学習用の教材及び外部機関との連携の在り方に関する研究</li> </ul> <p><b>【ケースメソッドを取り入れた学習指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業財務分析をテーマとしたケースメソッドの学習内容及び指導法の研究</li> <li>・国際会計をテーマとしたケースメソッドの教材及び指導法に関する予備的な研究</li> </ul> <p><b>【ジョブチャレンジ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期の勤労実習の第2年次での試行実施に向けた予備的な研究</li> </ul>
第1年次	<p><b>【職業バカロレアの試験・評価法を活用した学習指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年「簿記」，2年「財務会計Ⅰ」における職業バカロレアの試験手法を用いた学習指導の予備的な研究</li> <li>・2年「プログラミング」における職業バカロレアの試験手法を用いた学習指導と評価法・評価規準の研究</li> </ul> <p><b>【商品開発に関するアクティブ・ラーニングの学習指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業との連携による和菓子・紙布の商品開発の学習内容，指導法及び外部機関との連携の在り方の研究</li> </ul> <p><b>【地域への貢献に関するアクティブ・ラーニングの学習指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活性化のためのイベントの企画・運営の学習内容，指導法，外部機関との連携の在り方の研究</li> </ul> <p><b>【国際交流に関するアクティブ・ラーニングの学習指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「国際テレビ会議システムを活用した交流授業」，「英語によるプレゼンテーション大会参加」及び「外国人留学生との交流」の学習内容・指導法の研究</li> </ul> <p><b>【グローバルビジネスに関するアクティブ・ラーニングの学習指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・台湾でのビジネス実習に必要な最低限の中国語会話の学習に関する学習内容，教材，指導法の研究</li> <li>・グローバルビジネスで必要とされる英会話，貿易取引に関する実務や外国でのビジネスマナーに関する学習内容，教材，指導法及び外部機関との連携の在り方の研究</li> <li>・東南アジアの経済事情に関する学習用の教材及び外部機関との連携の在り方に関する研究</li> </ul> <p><b>【ケースメソッドを取り入れた学習指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業財務分析をテーマとしたケースメソッドの学習内容及び指導法の研究</li> <li>・国際会計をテーマとしたケースメソッドの教材及び指導法に関する予備的な研究</li> </ul> <p><b>【ジョブチャレンジ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期の勤労実習の第2年次での試行実施に向けた予備的な研究</li> </ul>		

第2年次	<p>【職業バカロレアの試験・評価法を活用した学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年「簿記」，2年「財務会計Ⅰ」における職業バカロレアの試験手法を用いた学習指導及び評価法・評価規準の研究</li> <li>・2年「プログラミング」における職業バカロレアの試験手法を用いた学習指導と評価法・評価規準の研究</li> <li>・1年「情報処理」における職業バカロレアの試験手法を用いた学習の教材と指導法の予備的な研究</li> </ul> <p>【商品開発に関するアクティブ・ラーニングの学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業との連携による和菓子・紙布の商品開発の評価法・評価規準の研究</li> </ul> <p>【地域への貢献に関するアクティブ・ラーニングの学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活性化のためのイベントの企画・運営の評価法・評価規準の研究</li> <li>・生徒による出張授業の第3年次実施に向けた予備的な研究</li> </ul> <p>【国際交流に関するアクティブ・ラーニングの学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「国際テレビ会議システムを活用した交流授業」，「英語によるプレゼンテーション大会参加」及び「外国人留学生との交流」の評価法・評価規準の研究</li> </ul> <p>【グローバルビジネスに関するアクティブ・ラーニングの学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・台湾でのビジネス実習に必要な中国語会話に関する学習内容，教材，指導法及び評価法・評価規準の研究</li> <li>・ビジネス英会話，貿易取引に関する実務や外国でのビジネスマナーに関する学習の評価法・評価規準及び東南アジアの経済事情に関する学習内容，指導法の研究</li> <li>・外国人向けの名古屋観光案内の作成・ツアーガイド実習の学習内容，指導法の研究</li> <li>・最終年次に実施予定の「ワールドバザール」の企画と実施要項の作成</li> </ul> <p>【ケースメソッドを取り入れた学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業財務分析をテーマとしたケースメソッドの評価法の研究</li> <li>・国際会計をテーマとしたケースメソッドの指導法・教材及び指導法の研究</li> </ul> <p>【ジョブチャレンジ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期の勤労実習の試行実施における事前指導及び事後指導，実習中の監督に関する研究</li> </ul>
第3年次	<p>【職業バカロレアの試験・評価法を活用した学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年「簿記」・「情報処理」，2年「財務会計Ⅰ」・「プログラミング」における職業バカロレアの試験手法を用いた学習指導及び評価法・評価規準の研究</li> </ul> <p>【商品開発に関するアクティブ・ラーニングの学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業との連携による和菓子・紙布の商品開発の評価法・評価規準の研究</li> </ul> <p>【地域への貢献に関するアクティブ・ラーニングの学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活性化のためのイベントの企画・運営及び生徒の出張授業の評価法・評価規準の研究</li> </ul> <p>【国際交流に関するアクティブ・ラーニングの学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「国際テレビ会議システムを活用した交流授業」，「英語によるプレゼンテーション大会参加」及び「外国人留学生との交流」の評価法・評価規準の研究</li> </ul> <p>【グローバルビジネスに関するアクティブ・ラーニングの学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語会話・ビジネス英会話・貿易取引に関する実務・外国でのビジネスマナー・東南アジアの経済事情に関する学習，外国人向けの名古屋観光案内・Webの作成及びツアーガイド実習の指導法，評価法・評価規準の研究</li> <li>・「ワールドバザール」の学習内容・指導法の研究</li> </ul> <p>【ケースメソッドを取り入れた学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業財務分析，国際会計をテーマとしたケースメソッドの指導法・評価法の研究</li> </ul> <p>【ジョブチャレンジ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期の勤労実習の教育的効果に関する研究</li> </ul>

○教育課程上の特例（該当ある場合のみ）

無し

○平成29年度の教育課程の内容（平成29年度教育課程表を含めること）

別紙「平成29年度教育課程表」参照

## ○具体的な研究事項・活動内容

本校のSPH事業は「世界を視野に、地域で貢献し、ビジネスを創造・構築できる人材を育成する」ためには、商業科目においてどのような指導を行うことが適切であるかを研究することを目的として計画した。本年度は、「職業バカロレアの試験手法」・「アクティブ・ラーニング」を採り入れた学習の評価及びその評価の成績への反映の仕方に関する研究を中心に行った。また、長期の勤労実習に関しては、昨年度に引き続き、法的な課題、事前・事後の指導に関する調査・研究を行った。各研究の概要は次のとおりである。

### 1 職業バカロレアの試験・評価法を活用した学習指導

#### (1) 実施状況

##### ① 職員向け研修の実施

- ・10月に『簿記』、『プログラミング』の研究授業を実施し、運営指導委員より指導助言を得る機会を設けるとともに、全職員を対象として評価に関する研修を実施した。

##### ② 『プログラミング』

###### [研究内容]

- ・職業バカロレアの試験手法を導入した授業に適切な教材及び指導法、評価法の研究

###### [活動内容]

- ・7月、12月に、職業バカロレアの出題意図・形式に沿った手法による授業の実施及び教材、指導法、評価法に関する研究を行った。

##### ③ 『簿記』

###### [研究内容]

- ・1年全学級で実施し、職業バカロレアの試験手法を用いた授業の教材、指導法、評価法及び成績への反映の仕方の研究

###### [活動内容]

- ・1学級において5月、6月、10月に試行的に授業を実施し、全学級での実施時期・学習内容・教材・評価に関する研究を行った。また、11月から12月にかけて、1年全学級において2つの学習テーマにより、職業バカロレアの手法による授業を実施し、授業の成果・課題に関して検討した。

##### ④ 『情報処理』

###### [研究内容]

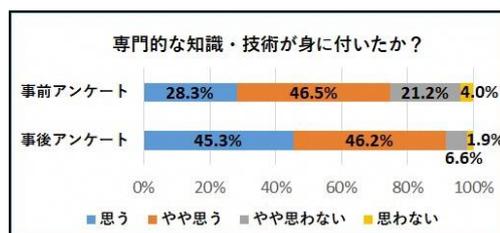
- ・職業バカロレアの試験手法を用いた授業の1年全学級での実施、授業の成果と課題の検証、教材、指導法、評価法に関する研究

###### [活動内容]

- ・全学級実施に向け、授業の展開、評価法について検討し、12月に2回の授業を実施するとともに、授業後に実施した生徒へのアンケート調査の結果を分析した。

#### (2) 研究の検証

職業バカロレアの試験手法の導入は、専門的な知識・技術の活用力・応用力、思考力、表現力、判断力の育成を目的として実施したが、生徒に対する事前・事後のアンケートの結果から特に専門的な知識・技術の習得に効果がみられた。



### 2 アクティブ・ラーニングを導入した「商品開発」に関する学習指導

#### (1) 実施状況

##### ① 和菓子の商品開発

###### [研究内容]

- ・商品開発をテーマとしたアクティブ・ラーニングの学習に関する評価法、開発した商品の販路を拡大するための学習・実習及び協力機関との連携の在り方に関する研究

###### [活動内容]

- ・協力機関による和菓子の商品開発、開発商品の販売、個別商談会の参加、販路拡大のプロモーション活動等の学習を実施し、指導法及び評価法について研究した。

##### ② 紙布による商品開発

###### [研究内容]

- ・商品のコンセプト，ポータルサイトの利用による販売促進等に関する学習の指導法と評価，協力機関との連携の在り方に関する研究

[活動内容]

- ・本校が取得した商標「s i f u」のブランドを効果的に活用する商品のコンセプト作りとコンセプトに基づく派生商品の創出及びポータルサイトの利用による販売促進等に関する学習の指導内容・評価法の研究及び協力機関による指導内容・指導法を含む連携の在り方について検討した。

(2) 研究の検証

商品開発では，自ら商品を開発しようとする積極性，開発した商品の販路を拡大するためのプロモーション活動を行う積極性・行動力の育成を狙いの一つとしている。生徒は自ら考えた商品・ビジネスプランを，実際に企業へ提案・説明を行っており，その成果として右表に示したように毎年協力企業数，商品化点数も増加した。

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
協力企業数	4	6	9
開発提案数	76	85	90
商品化点数	4	5	8

3 地域への貢献に関するアクティブ・ラーニングの学習指導

(1) 実施状況

[研究内容]

- ・地域の活性化について主体的に考え，行動できる人材の育成を目的とした地域貢献に関するアクティブ・ラーニングの学習内容，指導法，評価法に関する研究

[活動内容]

① 地域商店街の活性化のためのイベントに関するアクティブ・ラーニング

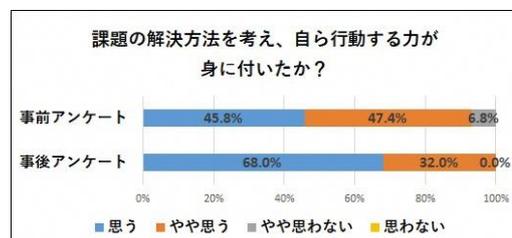
- ・4月より1月まで，地域貢献をテーマとする愛知工業大学のゼミナール「地域共創講座」に生徒が参加し，大学生と共に地域貢献に関する調査・研究を行った。その成果を研究報告書とプレゼンテーション原稿にまとめ，A I Tサイエンス大賞に応募し，「社会科学・地域づくり部門」で優秀賞（最上位の賞）を受賞した。

② 生徒による出前授業

- ・小中学校での教育課題の検討，出前授業の設定，授業の計画立案等の学習を行った後，小学校・中学校において生徒による出前授業を実施した。

(2) 研究の検証

この学習の大きな狙いである「地域の課題を自ら発見し，その解決策を考え，行動する力」の育成については，生徒のアンケート結果から一定の効果があつたと推察できた。



4 国際交流に関するアクティブ・ラーニングの学習指導

(1) 実施状況

① 国際テレビ会議システムを活用した交流授業

[研究内容]

- ・国際TV会議システムを活用した交流授業の学習内容，指導法，評価法に関する研究

[活動内容]

- ・6月と12月に海外姉妹校と交流授業を実施し，評価法を中心に研究を行った。

② 英語によるプレゼンテーション大会への参加

[研究内容]

- ・『国際交流実習』，『総合実践』における「英語によるプレゼンテーション大会への参加」に関するアクティブ・ラーニングの学習内容，指導法，評価法に関する研究

[活動内容]

- ・国際テレビ会議システムを活用した海外姉妹校の生徒との共同研究，タブレットP C等のI C T機器を活用した学習に関する指導法・評価法に関する研究を行った。
- ・「World Youth Meeting（8月）」，「Asian Student Exchange Program（12月）」における外国の高校生と共同発表に関する評価について研究した。

③ 外国人留学生との交流プログラム

[研究内容]

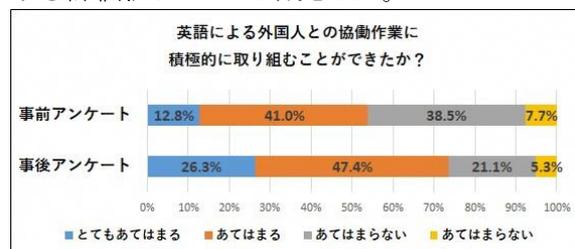
- ・異文化理解の深化と英語・中国語会話の活用・コミュニケーション能力の向上を目的とした外国人留学生との交流事業の学習内容、指導法、評価法に関する研究

[活動内容]

- ・日本や名古屋の文化を研究し、英語により発表する学習及び台湾（4月、11月）、中国（12月）の高校生との交流プログラムにおける評価法について研究した。

(2) 研究の検証

この学習の主たる目的は外国人との共同作業を通じて、積極性やコミュニケーション能力を育成することである。この学習により、右のグラフから理解できるように生徒はより積極的に活動できるようになった。



5 グローバルビジネスに関するアクティブ・ラーニングの学習指導

(1) 実施状況

① 中国語会話の学習

[研究内容]

- ・「ビジネス実務」における中国語会話の指導法、協力機関との連携の在り方、評価に関する研究。

[活動内容]

- ・協力機関より招聘した講師・中国語会話ソフトを活用した中国語会話の学習内容の研究及び招聘した講師との協働による教材の開発、指導法・評価法の研究を実施した。

② ビジネス英語・グローバルビジネスの実務の学習

[研究内容]

- ・「ビジネス実務」, 「総合実践」, 「広告と販売促進」における貿易取引・観光・ビジネス英語・ビジネスマナーの教材・指導法・評価法に関する研究

[学習内容]

- ・協力機関より招聘した講師やオンラインを活用したビジネス英語、貿易・観光に関する学習を行い、それらの学習に関する評価について研究した。

③ 東南アジアのビジネスに関する学習

[研究内容]

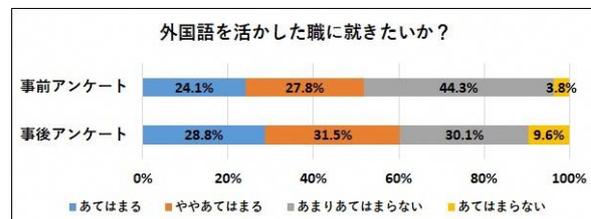
- ・海外姉妹校・現地企業との連携した商品開発の学習の指導法・評価法及び食品の輸入に関する学習内容・指導法・評価法に関する研究

[学習内容]

- ・マレーシアにある姉妹校、現地コーヒー工場及販売業者と共同した商品開発の学習内容・評価法に関して研究した。また、テレビ会議システムや電子メール等ICT機器を活用した学習の内容、指導法、評価法に関して研究した。

(2) 研究の検証

外国語を活用してビジネスを考える学習を実施し、グローバルな視野で活躍できる人材の育成を目指した。この学習による生徒の意識の劇的な変化はなかったが、外国語を活かした職に就きたいかとの問いに対して、肯定的な考えを持った生徒が増加したという結果であった。



6 ケースメソッドを取り入れた学習指導

(1) 実施状況

[研究内容]

- ・ケースメソッドを取り入れた授業の教材の開発、指導法及び大学との連携の在り方に関する研究および学習の評価に関する研究

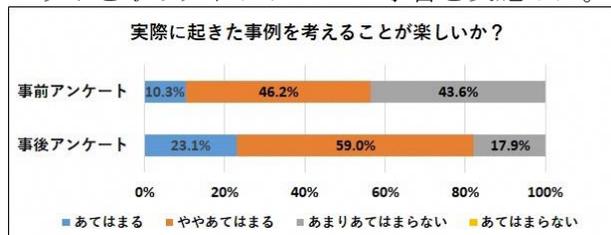
[活動内容]

- ・SPHケースメソッド協力会議を協力機関である大学において実施し、ケースメソッドの教材、指導法、学習計画、評価法に関して協議を実施した。

- ・商業科会計ビジネスコース3年「財務会計Ⅱ」において、両大学の協力のもと、「企業財務会計」および「国際会計」に関するケースメソッドを取り入れたグループ学習を実施した。

## (2) 研究の検証

ケースメソッドでは公開されている企業の会計情報を利用して、生徒に実際の企業活動に関心を持たせることを一つのテーマとしている。右のグラフは実際の事例を用いた学習に対する生徒のアンケート結果であるが、生徒の学習に対する意識の向上が認められた。



## 7 ジョブチャレンジに関する研究

### (1) 実施状況

#### [研究内容]

- ・長期間の勤労実習における、学校と企業との連携の在り方、事前・事後指導における学校と企業との指導内容の分担、実習中の企業・学校の指導・監督の在り方、有給で実施する場合の課題等に関する研究

#### [活動内容]

- ・高校生が有償で勤労実習を実施する場合に必要な、各種契約（生徒・保護者と雇用主との間で結ぶべき雇用、就労、秘密保持等に関する書類）に関して研究を行った。また、長期勤労実習に必要な事前指導及び事後指導に関する学習内容・指導法に関する研究を行った。

## 5 研究の成果と課題

### ○研究成果の普及方法

- ・本年度の全国商業教育研究大会、東海地区商業教育研究協議会、東海地区高等学校副校長・教頭会研究協議会での本校SPH事業の報告、本校で開催したSPH研究報告会、平成29年度後期東海地区商業校長会における授業参観、研究報告を実施し、本校SPH事業の普及に努めた。本県の先生・東海地区の校長先生へ授業内容・評価等を紹介した。本年度は、生徒の発表を中心とした「ワールドバザール」を中部国際空港において実施し、広く県民に本校の取り組みを紹介した。また、過去3年間にわたり、愛知県公立学校商業教頭会、名古屋市立高等学校教頭会において、本校SPH事業について報告し、普及に努めた。
- ・本校SPH事業で作成した指導案、教材、評価シート等については、本校ホームページに掲載するための準備を現在進めており、近く特設サイトとして公開する予定である。

### ○実施による効果とその評価

- ・「職業バカロレアの試験手法」・「アクティブ・ラーニング」を導入した授業ではいずれも、学習意欲や専門的な知識・技能が向上したと生徒は実感しており、授業に対する満足度も高い結果を得た。協力機関である大学、企業、関係機関、小中学校、地域商店街、海外姉妹校等との学習により、異世代の方や外国人とのコミュニケーション能力が向上した。また、SPH事業の多くを商業科の科目又は学校設定科目の指導計画に組み入れたが、検定試験や資格試験の合格者数及び合格率とも従前の数値を維持または向上させることができた。
- ・評価にあたっては、評価法をルーブリックによる評価で統一するとともに、評価基準を4段階（S、A、B、C）、1回の学習に対する評価項目を3～6項目として全校統一で実施した。また、ルーブリックにより評価した結果を数値化し、「職業バカロレアの試験手法」及び「アクティブ・ラーニング」による学習の授業時数・学習内容等を勘案し、事業対象の科目の指導で活用することができた。
- ・本校のSPH事業では、生徒・地域の状況を分析し、事業目標及び育成すべき能力・資質を明示し、そのために必要な学習を本校の教育課程をもとに実施、評価、改善を繰り返してきた。この活動をとおして「カリキュラム・マネジメント」の確立について理解することができた。また、各担当者は科目の年間指導計画を立て、授業を実践し、その結果を評価し、改善すべき点を検討し、次年度の計画に反映させるという作業を繰り返すことで、「PDCAサイクル」を実践することができた。

### ○実施上の問題点と今後の課題

- ・本事業のうち、海外での学習活動を除き、全ての事業が商業科目での研究であり、次年度以降も継続して実施する予定であるが、本事業で協力機関として連携した大学、企業、各種団体とは、次年以降も継続して連携できるよう、調整・協議が必要である。